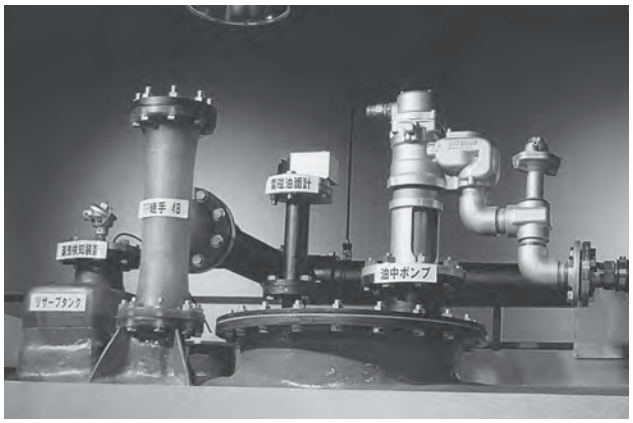
環境対策型燃料タンク・配管を製造販売
日本タンク装備株式会社（横浜市栄区）

今回は世界３大ガソリン計量機メーカーの株式会社タツノの子会社である、地下貯蔵設備の総合メーカー「日本タンク装備株式会社（JTO）」を取材した。天野豊（あまの・ゆたか）代表取締役社長。☎050－9000－0345。〒247-0006　神奈川県横浜市栄区笠間４－１－１。日本タンク装備は昭和63年（1988年）に地下タンク用工事部品の専門メーカーとして、タツノにより設立された。現在では、地下タンク用工事部品に加え、油配管材料、樹脂製地下タンクの製造・販売を展開している。

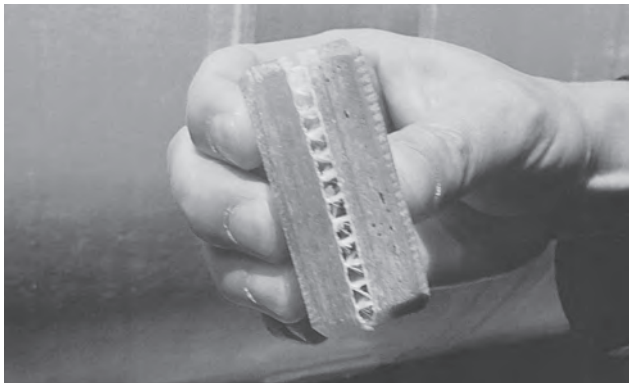
左から中原俊明営業部長、天野豊代表取締役社長、タツノの森英泰広報担当

地下タンク用工事部品の分野では、マンホール、分配弁、Ｅ通気弁などの製品を開発し、販売を行っている。また、油配管の分野では、継ぎ手のいらない地下埋設用フレキシブル樹脂配管「ジオフレックス」の輸入取り扱いや、国産初の樹脂製油配管である「JTOフレックス」の開発を行い、地下配管の腐食防止にも取り組んでいる。

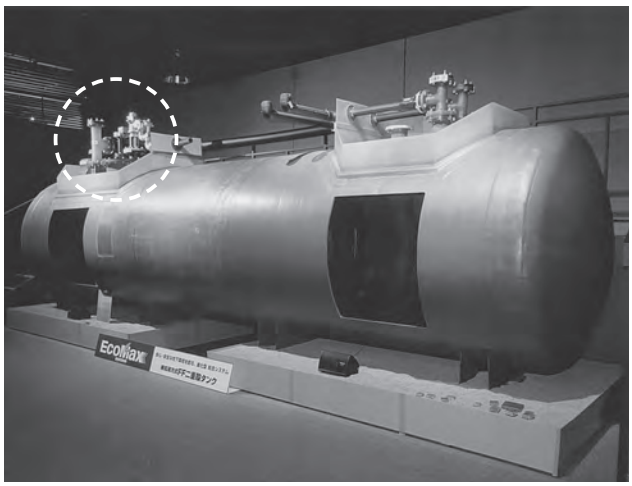


FF二重殻タンクの左上部に取り付けられた部品
（写真右下の丸囲み部分の拡大）

地下タンクの分野では、環境を重視する観点から地下から鉄をなくす取り組みを進め、その一環として、検知液方式FF二重殻タンク（FRP製の内殻と外殻の間に検知層を持たせ、一体構造とした二重殻



FF二重殻タンクの切断面



検知液方式FF二重殻タンク「EcoMaxシステム」

フレキシブル樹脂配管「GeoFlex（ジオフレックス）」

パイププロテクターを装着した地下埋設油配管「JTO FlexⅡ」（上）と「GeoFlex」（下）

E通気弁

ベーパー切り替え弁

タンク）を中心とした「EcoMaxシステム」をタツノと共同で製品化した。他社に先駆け地下環境の健全化のため「地下タンク設備の樹脂化」を積極的に進めるなど、地球環境の保全に貢献する高品質な製品を提供している「日本タンク装備」を紹介する。

★創業の経緯★

ガソリンスタンド機器の総合メーカー「タツノ」の100％出資子会社として、日本タンク装備は昭和63年（1988年）４月に設立された。設立時は本社を愛知県西春町に置き、地下タンク部品の製造販売会社としてスタート。同年５月に東京事務所を港区三田に開設し、販路拡大を図る。その後、本社を東京に移転し、業務範囲を拡大しながら、平成26年（2014年）４月に神奈川県横浜市栄区笠間の「タツノ横浜工場内」へ本社を移転。現在に至っている。

★取扱製品の変遷★

創業以来、地下タンク用工事部品を製造販売していた日本タンク装備は、平成４年（1992年）３月、地下燃料貯蔵システムや地下燃料供給システムを取り扱う米国「Environ Products社」と、また平成８年（1996年）５月、同じく米国「Smith Fiberglass Products社」との間で石油製品搬送用樹脂配管の日本総代理店契約を締結し、日本での樹脂配管到来時代に備えた。

そして平成12年、消防法改正を機に、FRP製配管ならびに地下埋設用フレキシブル樹脂配管「ジオフレックス」の輸入販売を開始した。さらに同年、地中への油漏洩防止対策製品としてのFRP製タンクサンプや、計量機用ピット、パイププロテクターの販売も開始し、地下設備の樹脂化に踏み出した。

分配弁Ⅳ型

さらに平成13年（2001年）４月には、江戸川重機工業株式会社を吸収合併し、地下タンク本体の製造・販売を業務範囲に加えた。平成15年（2003年）６月には国内初の石油用国産樹脂配管「JTOフレックス」の開発に成功し販売を開始、平成16年（2004年）２月にはFRPのタンク外殻と一体化する「FRP8角サンプ」の販売を開始した。

そして平成17年（2005年）７月には地下貯蔵設備樹脂化の中核をなす「検知液方式FF二重殻タンク」の製造販売をついに開始した。また同年８月にはガソリンベーパーの大気放出を制限する「Ｅ通気弁」の販売も開始し、その後主力である、FF二重殻タンクや樹脂配管等の製品改良を重ねると共に、地下貯蔵設備製品の開発を進めている。

★製造拠点・配送基地★

平成22年（2010年）９月、それまで愛知県、千葉県にて運営していた地下タンク製造工場を統合し、「検知液方式FF二重殻タンク」の製造拠点として茨城県ひたちなか市新光町の常陸那珂工業団地内に

日本タンク装備株式会社ひたちなか工場全景

ガソリンベーパー液化回収機能付き計量機D70

「ひたちなか工場」を竣工した。また、タンク以外の製品の配送基地として茨城県ひたちなか市に「ひたちなか配送センター」、埼玉県川口市に「東日本配送センター」、三重県桑名市に「西日本配送センター」を設置している。

ひたちなか工場では平成23年（2011年）年４月から「検知液方式FF二重殻タンク」の出荷を開始した。現在、月間でタンク本体35基、付属品のFRPサンプは70基の生産能力を備えている。

この検知液方式FF二重殻タンクとは、FRPの二重殻構造の間隙に検知液を満たし、内殻や外殻に異常が発生した場合、タンク上部にあるフロートセンサーが異常を知らせる仕組みで、万が一のタンクからの漏洩を常時監視できるシステムとなっている。また、2011年に発生した東日本大震災の際、老朽化した鋼製地下タンクにおいて、地震の揺れにより拡散されたスラッジ等が、発電設備、給油設備等のストレーナーに詰まり、燃料が供給できないトラブルが多く発生したが、スラッジの発生しない樹脂製の当タンクでの不具合発生は、設置されていたすべてのタンクで確認されなかった。

なお、ひたちなか工場は平成23年（2011年）３月に「危険物保安技術協会（KHK）」の審査を受け、FFタンクに関する確認工場の指定を受けている。また、本年平成28年９月には、ISO9001を取得し、さらなる品質管理の充実を図っている。

★注力する事業分野★

親会社であるタツノは平成23年（2011年）に創立100周年を迎えた。それを機に、向こう100年を創業第２世紀と位置づけ、「世界第１位の計量機メーカー」を目指すとしている。今後、グループの総力を挙げて、環境保全に貢献する樹脂製の地下埋設タンク・配管の新製品の開発や、新エネルギーの高効率利用を実

水素充てんシステム

現する関連製品の提供を通じ、世界市場にタツノブランドをより浸透させ、シェア拡大を図っていく。

中でも国内市場を皮切りとして、平成27年（2015年）から燃料電池車の商用車販売が開始されたことを受け、水素ステーション向け「高圧水素ディスペンサー」など、水素供給施設に関連するシステム・機器のさらなる開発を推進していく。また、燃料関連装置の環境対策にも注力し、業界初となる給油時に発生するガソリン蒸気（ベーパー）を回収して再びガソリンに戻す「液化回収装置」の拡販などに取り組んでいく。

一方、日本タンク装備は、タツノグループの一員として今後も地下環境の健全化に向けての取り組みをさらに推し進め、「安全で安心な燃料油貯蔵施設の地下環境システム」を各方面へ提案していく。

具体的には、BCP（事業継続計画）対策用の「自家発電設備」の新設や、増設が見込まれる通信企業・総合病院・消防機関・自治体など向けの「自家用給油所施設」等に、腐食や電食の心配がなく、地震等の災害にも強い「総樹脂製タンク」「総樹脂配管」などを積極的に売り込んでいく考えだ。